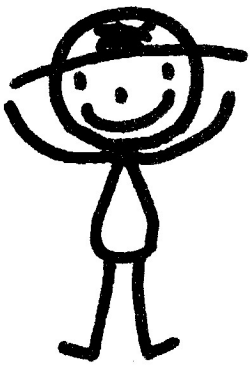
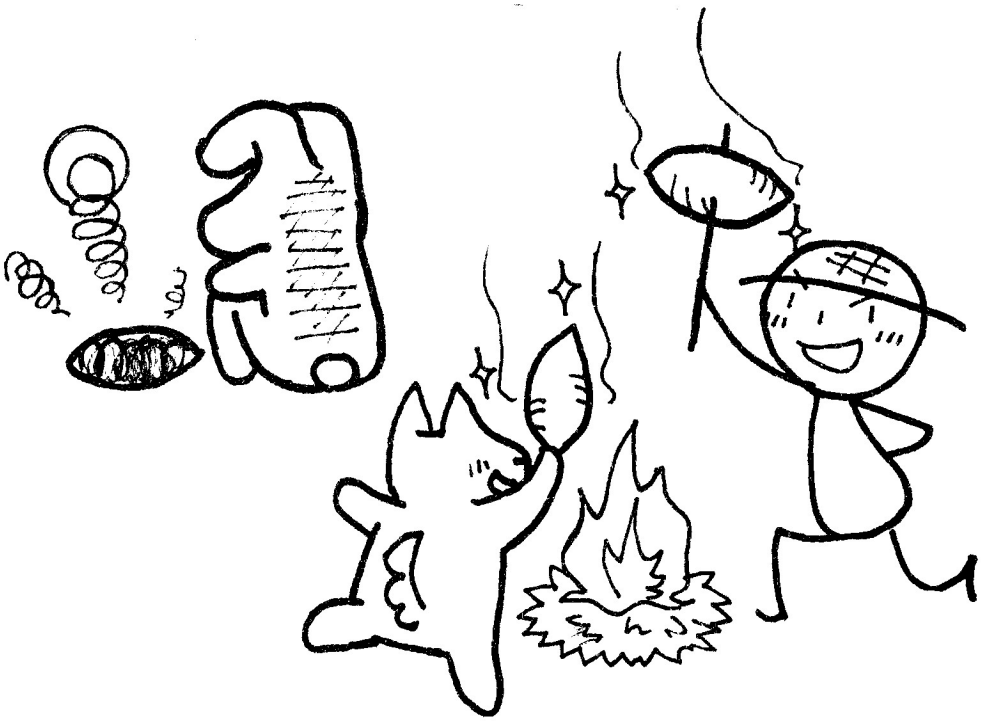
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ
ま～ゆ



蚕都くらぶま～ゆ会報 **No.7** 2002年9月10日発行



ま～ゆ連絡先　代表　安井啓子

〒386-0001 上田市上田 2574-16

Tel&fax　27-3186

メール　ma-yu@ml.melma.com

ま～ゆホームページ　http://www.ued.janis.or.jp

ま～ゆの新会員　　（有）信州うえだファーム・林　寛 夫 室長

ま～ゆに初めて法人会員が誕生しました。
有限会社の信州うえだファームです。
ファームは JA の農業生産法人で「遊休農地と農業参加希望者を結びつけて農地の復活と地域の活性化」を目指しています。と、言えばピンと来る方も多いでしょう。
ま～ゆの須川・田んぼプロジェクトを支援してくださったのがこのファームです。

プロは棚田に手をつけない？

さて、ファームはま～ゆに何を期待して、いるのか？ 代表の林寛夫室長に伺ってみました。

林さんは青木村の出身で昭和４１年に農協の畜産指導員としてスタートして以来、今日まで上田市の農業に専念してきました。

その林さんは高度成長期から急激に増えてきた遊休農地（耕作しない荒れた農地）に歯止めをかけようと尽力してきました。高齢化、経済性などなど… 農地の放棄はさまざまな理由をつけて着実に進行してきました。「農業がだめになって、初めて農業の大切を知る」と少し悔しそうな林さん。でもま～ゆに出会ってから希望が見えてきたといいます。

農業のプロなら絶対に手をつけない須川の棚田を喜ぶ人がいる…。あの棚田に愛着を持っていた林さんはま～ゆの田んぼプロジェクトに精を出す人たちに未来を見たのです（まるでプロジェクトXだ！）

農の素人に期待

「経済性を追求するなら遊休農地は誰も手をつけず永遠に再生しない。自分達の環境を守るために農業に興味を持つ人たちならこの遊休農地を再生できる」と林さんは期待したのです。

いま上小地区だけで 270 町歩の遊休農地があります。このままだと死ぬしかない農地を蘇らせるには「農業を楽しむ人たち」がどんどん&あちこちに登場し、楽しみながら農地再生をすることです。林さんたちはプロの立場で応援を惜しまないとのこと、心強い味方です。

私も須川の棚田で人生はじめての「田んぼ体験」をしたばかり。土の匂いや草の匂い･･･。いつも新しい変化がある！たしかに農家の方はこんな風に感傷に浸っている暇は無いのかもしれない。自然の中にいる気持ちよさって他には代えられない心地よさだ。

農業の素人だからこそ農地の新しい価値と活用を発見できるかもしれない。ま～ゆの皆さん！遊休農地があなた達を待ってますよ！

林さんたちファームと一緒に知恵と力と技を出し合って見ましょう。それでは最後に林さんの夢をご紹介します……

上小に「食の独立国」をつくる！

（文責　３番 ホー伯父）

ま～ゆの新会員　　石井鶴登さん＆アミティエ

鼻の下とあごにヒゲをたくわえた石井さんは、いかにもどこかの施設の館長さんといった風情です。知的障害者がグループで自立して暮らすホーム「アミティエ」を運営しています。

アミはフランス語で「友達、仲間」。現在21～42歳までの6人が暮らしています。

石井さんがま～ゆに期待することは沢山あります。「話し相手」「遊び相手」「一緒に買い物へ」「一緒にドライブへ」「カラオケへ」。ユニークなのは「焼き鳥などで一杯つきあっていただける方」「ダジャレ合戦が得意な方」。要ば、何だって良いんです。

施設と外の世界との接点をつくりたい。「寄り添ってくれればいいのです」とのこと。

サラリーマンを辞め、地域に役立つことをしたいと考えて'99年からグループホームアミティエを始めました。入所者は、リストラの嵐に合いながらも、給食センターや工場、共同作業所などの仕事で自立しようとしています。温和な優しい目をした自然体の石井さんと入所者ば、信頼の糸で結ばれていました。

私のま～ゆ的生活　☆さえ

高村冴子

ま～ゆに入ってまだ日の浅い私ですが、今日はま～ゆでの体験を簡単にご紹介します。

これまで、4回ま～ゆを使いました。そのうち2回が熱勝さんでのカレー作りです。料理は毎日しているので、カレーを作るぐらいなら私でも役に立てるだろうと思い、お手伝いにいきました。しかしそれよりも、いってみると、いつも二人で作るのですが、相手の方のカレーさばきには興味深いものがありました。カレーといえども作り方は十人十色。皮のむき方から、炒める順番、仕上がった味は全然違うのです。あたりまえのことですが、同じ料理を違う人と作るというのはありそうでない珍しい体験でした。また、20人ほどのカレーを作るということも初めてだったし、人に食べてもらうという緊張感はなかなか良いもので、ま～ゆはひとつのきっかけに過ぎないけど、貴重な良い体験となりました。

カレーを作る間、たくさんお話もしました。地域周辺の話が自然と多いものです。もちろんま～ゆのことも話題の中心。そんな話をしているうちにま～ゆへの愛着が増していくのかと気づきます。

帰りには、たくさんのお野菜を頂いて、余ったカレーも頂いて、家族のお腹を満たしてくれました。うちの家族もま～ゆにあやかっているわけです。頼って、頼られてみんなのお腹が満たされるといいですね。どうも、ごちそうさまでした。

のび太さんの「ま～ゆな日々」　№7 のび太こと 早川 潤

廃校になった旧西塩田小学校で行なわれている展覧会「海の向こうより山の向こう」の見学に行った。

空き教室を利用した様々な美術作品の展示が行われている、が私にはもうひとつの目的があった。受付の方にま～ゆでお願いします、と言うと、あ、はい！とすぐにま～ゆの通帳を差し出してくれた。見ると、サエさん、かっちゃくさんに続いて私は3人目の利用者だ。父の校舎実はこの学校は私の亡き父が卒業した学校でもある。もう8年前になるが病床でしきりにふるさと塩田を懐かしがっている父に、母校の写真をと思い、はじめて訪れた日が偶然にも廃校式の行なわれていた日だった。

その日は校舎の中までは入れなかったので今日は作品共々、校舎自体の見学も楽しみにしていた。わたしは美術には（にも？）うといのだが、作品と古い教室が見事なハーモニーを奏でている。平日の午後でもあり訪れる人は少なく、ほとんど どの教室でも見学者は私一人という、贅沢な空間と時間をすごす。また、それぞれの教室、黒板、廊下、階段、階段の手すり、またそれらに長年の歳月で刻まれた傷は木造校舎ならではの趣がある。この柱の古い傷はもしかしたら…などと考えるとまた別の想いがこみ上げてきた。「海の向こうより山の向こう」なんと心地よい響きのタイトルなのだろう。イベントを計画から実行された多くの皆さんに感謝しつつ旧西塩田小学校を後にした。

最近は木造校舎が見直され、子どもの成長に与える好影響も指摘されている。教育の現場は様々な問題を抱えてはいるが、校舎というハード面でもおよそ「先進国」としてはお恥ずかしい状況にあるように思っていた。県知事に再選された田中康夫氏は教育予算への重点配分と県産材の活用を謳っている。この面でも大いに期待のもてるリーダーであると私は思う。

地域通貨のわかるビデオ

地域通貨を判りやすく紹介したNHKの「地域通貨番組」のビデオです。
ビデオの借用を希望される方はま一ゆ世話人にお話ください。

1、「エンデの遺言・お金を問う」(55分)
　　地域通貨の理念が良くわかります。(ただし画質は難あり)

2、坂本龍一・地域通貨の希望」(55分)
　　世界や全国の地域通貨の活動を紹介(画質はきれいです)

3、坂本龍一銀行の未来」(55分)
　　人間らしい社会への取り組み(画質はきれいです)

4、「クローズアップ現代・地域通貨」(30分)
　　わかりやすくまとまっています(画質はきれいです)

田んぼプロジェクトだより

会員番号 ２番　　ごんべいこと中 島 邦 夫

８０年ぶりの猛暑

今年の夏は ものすごい暑さでしたね。八十半ばのおばあさんに聞いたら、「大正 12 年の関東大震災の年以来だよ」と話していました。と言うことは 80 年ぶりの猛暑だったんですね。これは自然界のブレの範疇なのでしょうか？はたまた地球温暖化のなせる技なのでしょうか？

とにもかくにも我が須川の田んぼにとっては、恵みの天候といえたかも知れません。完全有機栽培の稲は、不揃いながら元気に隆々と育っております。このままで行きますと 10 月末には美味しい（かどうか分かりませんが、安全・安心で顔の見えるお米に間違いはありません）新米が食べられそうです。盛大に新嘗祭（にいなめさい）を行いたいと思っていますので、楽しみにしていて下さい。

＜米作り作業日誌＞

７月上旬

一日おき位で水管理。村の水当番さんも気を使ってくれて、枯れるようなことは無い。下の２枚の田んぼの調節が上手く行かず冠水し、根腐れが出ている。まあ今年はともかく様子を見るか。

７月９日

稲作現地指導会。JA 西部営農センターの羽田指導員の説明を受ける。病気に対する農薬、生育不良に対する化学肥料の説明だ。ふーんプロはこうやってお米を作っているんだ。「我らの田んぼは生育が遅れているようですが」と質問すると「有機栽培ですか、いずれ追いつきますよ」とのこと。と言うことは、化学肥料は やってもやらなくても結果は同じなのか、生育が早いか遅いかの違いだけなのか。確かに隣の田んぼでは でこぼこで不揃いだ。しかし葉や茎は緑濃く隆々としていかにも健康そうだ。欲目かなー。

７月１０日

ま～ゆ市で７月 11～17 日まで１週間中乾し（根腐れや過繁茂を防ぎ刈り取り時の作業をし易くする為に水を止め田を乾かす事）をしますと報告したところ、「おたまじゃくしや水棲昆虫はどうなるの」と黒田さんから質問があり、非難池（ちょっとした水たまり）を作ってやることにしました。これは稲作よりおたまじゃくしを大事にするま～ゆの奥の深～い思想なのです。

７月１４日

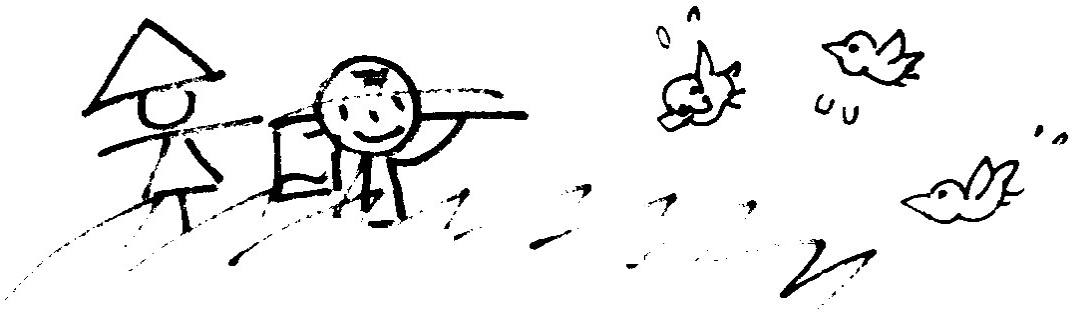
おたまのために:ホーおじさんの文章（ま～ゆホームページ掲示板より）

一人二人と須川に野良仕事姿の中年が集まる。その数９名。ビーバー２台と鎌で畦草刈りは瞬く間に終了。田んぼの中の雑草は信じられないくらい少ない。（専門家が驚いていました）。理由はたくさんのおたまじゃくしが泳いで泥を巻き上げて水を濁すからだそうです。無農薬だからオタマも元気。

元気ついでに須川湖をぐるっと散策しました。湖面越しのアルプスを望む。一同感激。皆さんにも見せて上げたい！

湖で見かけた生き物は「ブラックバスの子」「アメリカザリガニ」「ミドリガメの大人」「パンダトンボ（コシアキとんぼ）」… ほとんどが舶来（古い）でした。オイオイ在来種は何処に行ったんだい？

それにしても田の中の草がこんなに少ないのはなぜだろう。おたまじゃくしや水棲昆虫がかき回して除草してくれているのかも知れない。今年はころばし機の除草はやらなくて良さそうだ。



８月４日　須川自治会恒例のグラウンドの草刈りに参加。交流の輪が少しずつ広がってきた。田んぼのおたまは殆ど蛙になって巣立っていったようだ。また来年会おう。

８月 10 日　ジャガイモパーティー
青木一郎さんのご好意で須川の新じゃがを提供していただき８月のま～ゆ市はジャガイモパーティーとなりました。真夏の炎天下でしたが須川の木陰は爽やかで涼しく、良い思い出になりました。

８月 20 日　隣の休耕田で そばと豆を作っている青木一男さんと話し込んだ。不揃いの稲は深植の所為では とのアドバイス。来年に活かそう。そばは自家用にして余ったら分けてくれるとのこと。そば祭りもやろう。

９月１日　知事選も終わり久しぶりに田んぼへ。耕作組合長の手塚清さんに会う。昨日で水落し(潅漑の為の給水を止める) したとのこと。我らの田んぼだけへの給水は無理とのことぃ。来年は田植えの時期を回りに会わせて５月中旬にしよう。

今後の予定

９月	２９日(日)	稲刈り
10 月	20 日(日)or27 日(日)	脱穀(乾燥具合を見て)
11 月	１０日(日)	ま～ゆ市新嘗祭

ま～ゆ会報ここに置いてあります！

□ フリーマーケットのんどり

TEL0268－26－9355

上田市上田原・華龍花柳飯店となり

□ 上田市立図書館

TEL0268－22－0880

上田市材木町１丁目

□ 熱　勝（ねっしょう）

TEL0268－29－3880

上田バイパス秋和・長野県酒販前

ま～ゆ会計報告

<2002年９月現在>　　No6　田中記

- この２ヶ月は収入・支出は無しです
- これまでの収入総額　170,000円
  これまでの支出総額　110,709円
  残金　50,709円
- 11月はま～ゆ誕生１周年です。
  残金の有効な使い道を提案して下さい。

お知らせ！地域通貨の勉強会

講師　白戸　洋さん
とき　９月25日〔水〕
ところ　上田合同庁舎
主催　上小消費生活センター

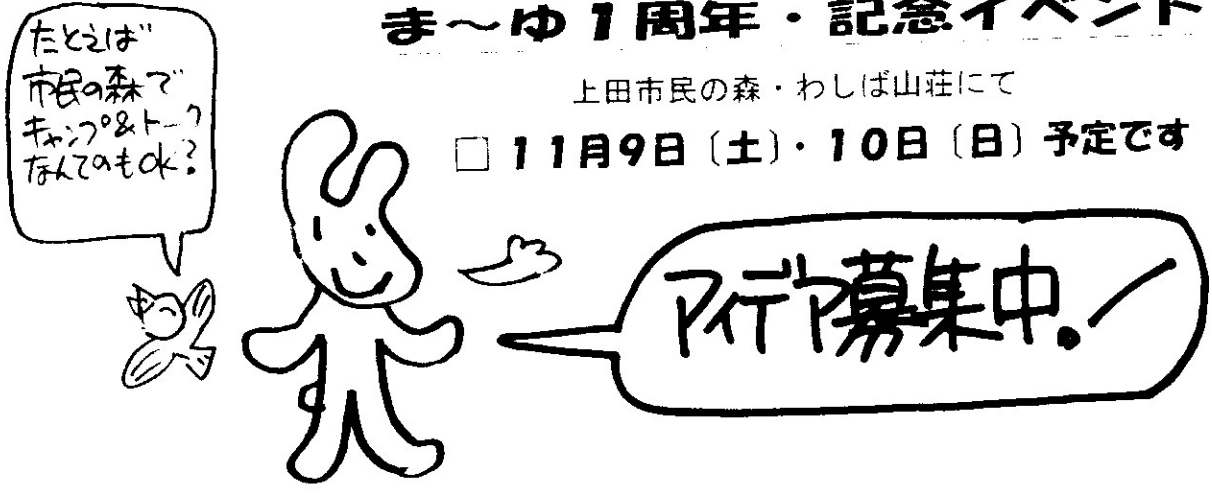
くわしくはNo.6　田中さんへ

１０月のま～ゆ市

10月10日（木）夜7時から

中央公民館３階　和室にて

ま～ゆ１周年・記念イベント！

上田市民の森・わしば山荘にて

□ **11月9日〔土〕・10日〔日〕予定です**